

令和5年2月8日

令和4年度第2回大河原地域普及活動検討会

プロジェクト課題 「令和元年東日本台風被災農地の復興に向けた担い手確保」



計画期間：令和3年度～令和4年度
対象者：竹谷地区基盤整備推進委員会 20人
大河原農業改良普及センター
近藤誠，内海章，伊藤あゆ美，伊藤修，庄子正秀

1. 課題の背景（令和元年東日本台風の被害）

農地



農業機械



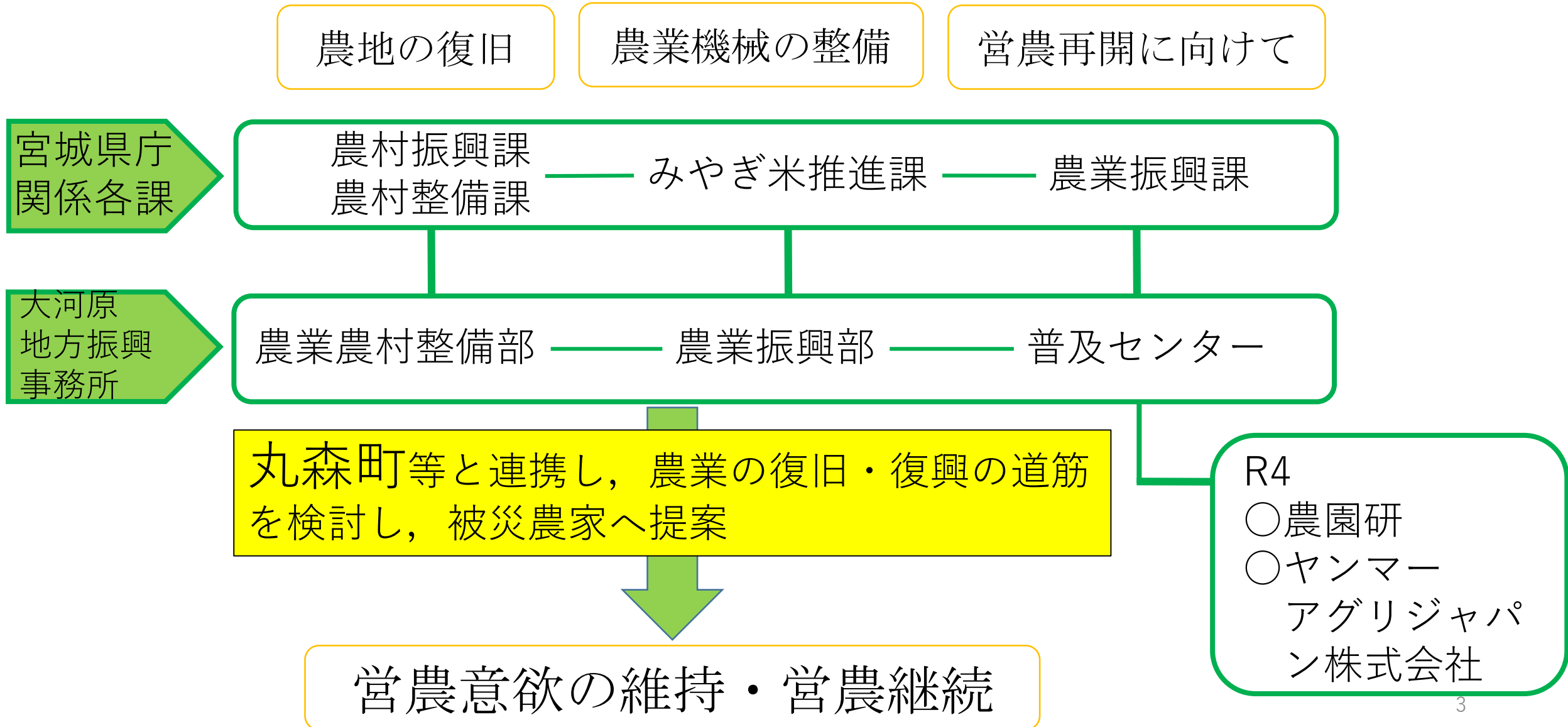
甚大な被害を及ぼし，先行きが見通せない



営農意欲 の低下

離農者増加の危機

1. 課題の背景（復旧に向けた支援体制（R元年～））



2. 対象者の概要

1. 丸森中央集団転作組合

(竹谷地区基盤整備 推進委員会) について

営農地区 : 竹谷地区・五福谷地区・中通地区 等

設立年月日 : 令和2年4月28日

組合員数 : 123名 (設立当時)

組合の目的 : 台風の甚大な被害からの営農再開体制の構築と持続可能な農業を維持し、次世代に優良な農地を継承する

2. 被害の概要等

被災した農地面積 : 約66ha

- 経過 ○令和2年 : 台風被害で営農不能
- 令和3年3月 : 一部復旧工事完了
- 令和3年5月 : 2年ぶり営農再開
- 令和4年3月 : 復旧工事完了

3. 将来

- 組合を母体とした法人設立
- 農業基盤整備

営農再開に向けた支援を実施

3. 活動目標と活動事項

指 標	目 標			
成果指標	【定性的目標】			
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農地の復旧状況に合わせた営農が再開されることで、農業者が前向きに農業に取り組めるようになる。 ・ 地域の担い手候補が明確化される。 			
	【定量的数値目標】			
	担い手人材の確保 (目標) (実績)	R2 1人 1人	→ R3 2人 1人	→ R4 3人

4. 活動の成果 (R3までの活動内容)



(R2)
【地力増進作物作付けによる
営農再開準備支援】



(R3) 【営農意欲の維持・向上】
【園芸栽培への転換誘導】
【共同作業体制の構築】

4. 活動の成果（R4）

1. 復旧水田での水稲安定栽培支援

- 復旧2年目水田での肥培管理や病虫害防除指導
- 地下茎雑草等の雑草対策支援

2. 復旧水田での園芸品目安定栽培支援

- 農地に合わせた品目の選定の支援，栽培技術指導
- ブロッコリーの機械化一貫体系の実証 等

3. 担い手確保支援

- 品目担当者への積極的指導による担い手候補育成と意識醸成

4. 活動の成果 (1. 復旧水田での水稻安定栽培支援)

【①土壌分析による施肥設計】

土砂流入による影響を調査



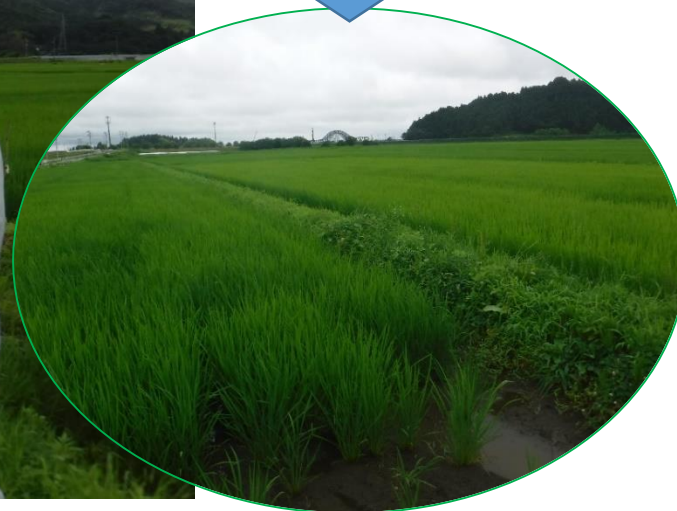
【②現地検討会】

現地ほ場を確認し，葉色等などから肥培管理についてアドバイス

【③地下茎雑草対策】

対応策について助言

ほ場によって葉色が異なる
(土砂流入の影響も)



地下茎雑草



営農再開後，台風被害の影響は
少なく，営農再開以降，順調に収穫

4. 活動の成果(2. 復旧水田での園芸品目安定栽培支援)



将来に向けて
ブロッコリーの
機械化一貫体系
の実証に取組
んでみては？

湿田で栽培
可能な品目は？

土壌分析結果
からどのほ場
を選択する？

【令和4年度 本格的に園芸に挑戦】

組合の意向を尊重しながら、品目の提案し、選定を支援

4. 活動の成果(2. 復旧水田での園芸品目安定栽培支援)

【(春)ブロッコリー(28.5a)】
【(秋)ブロッコリー(67.5a)】



【たまねぎ(81a)】



【ツルムラサキ (4.3a)】



【そば (26.5a)】



【さといも(6.8a)】



【さつまいも(15a)】



【ばれいしょ (8.5a)】



【牧草 (5.2ha)】



地域や組織体制に適した品目を選定

4. 活動の成果(2. 復旧水田での園芸品目安定栽培支援)

普及センターで実施した主な提案

★ブロッコリー機械化一貫体系の実証

機械収穫に伴う新たな販売先（加工業務）

★タマネギの直播栽培

新たな省力化技術の導入

★新たな品目の導入

さつまいも， つるむらさき

【機械化一貫体系の実証に取り組んだ目的】

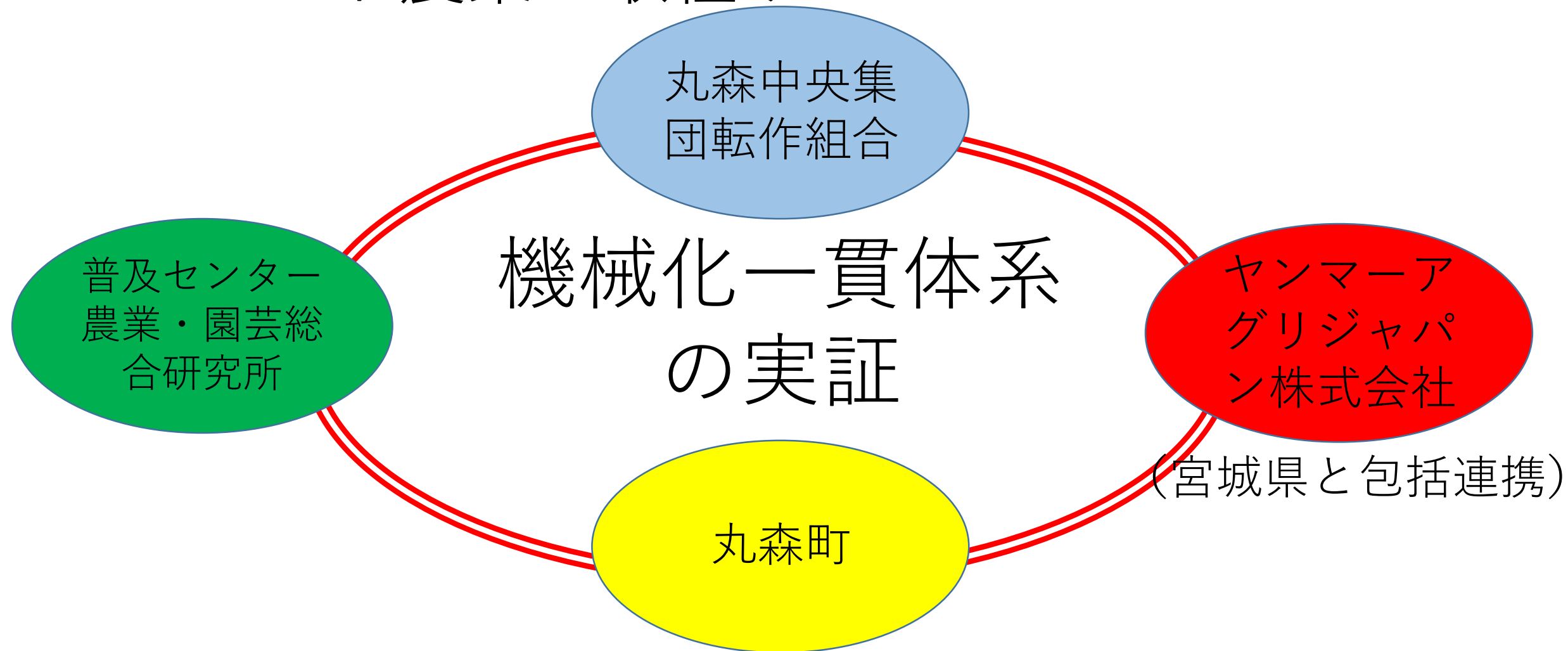
< 将来の営農計画へ提案 >

スマート農業

- ①軽労化・省力化
- ②少ない人手で農地を維持
- ③農地の効率的な利用
- ④担い手のやる気向上

高齢化
担い手不足
解決のカギ

園芸品目の核となるブロッコリー ＜スマート農業の取組み＞



関係機関の連携による支援

4. 活動の成果(2. 復旧水田での園芸品目安定栽培支援)

R4.3.8実演会開催



カッターブレーカーで排水対策

R4.8.23実演会開催



RTKを活用した自動操舵で
真っ直ぐな畝づくり

R4.8.23実演会開催



機械移植で楽々定植

R4.9.21防除作業実施



RTKを活用した自動操舵で
防除。薬液節約を調査

R4.11.14機械収穫実施



機械収穫で楽々収穫



RTKを活用した
自動操舵で中耕培土

RTKシステム + 自動操舵システムによる畝成形



RTKシステム + 自動操舵システムによる畝成形

【慣行の畝立て】



【RTK + 自動操舵でまっすぐ】



まっすぐなので後の管理も効率up

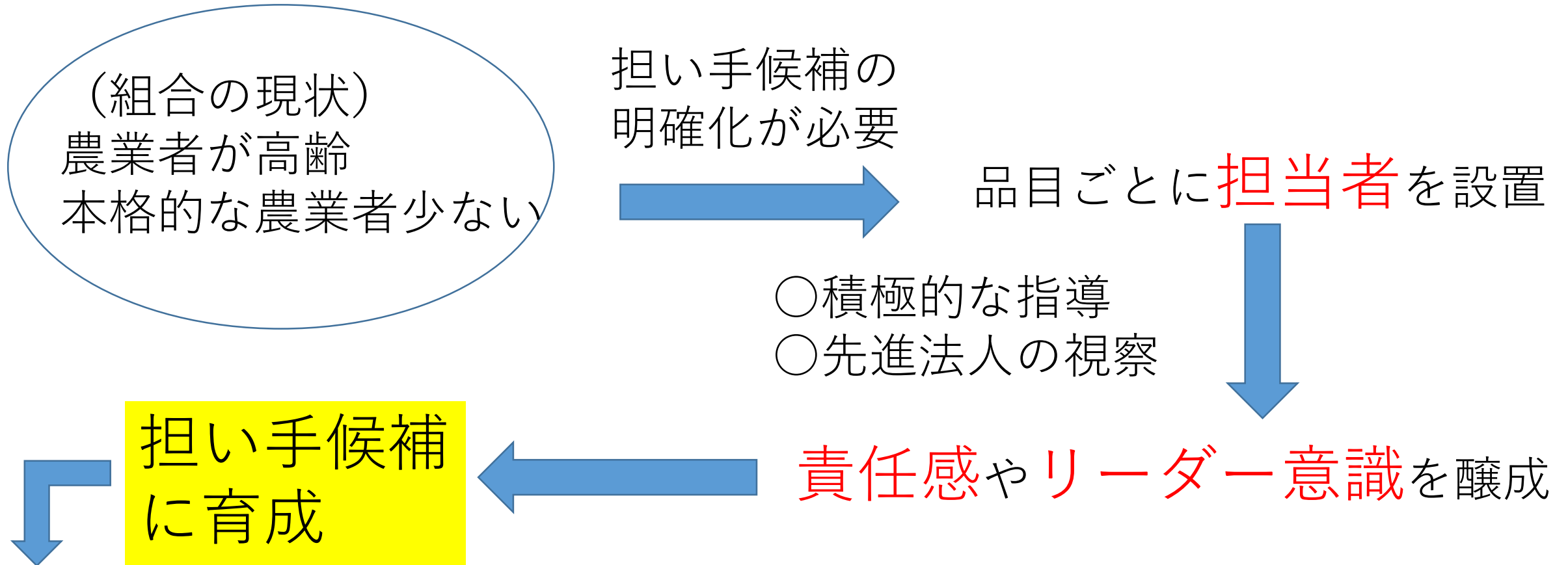


ブロッコリーが倒伏して
曲がって収穫機に入る
「茎が斜め」
「花蕾の損傷」

収穫物は加工業者に出荷



4. 活動の成果 (担い手確保支援)



本地域担い手

「丸森中央集団転作組合 (新設される法人)」

4. 活動の成果 (担い手確保支援)

タマネギの直播 (共同)



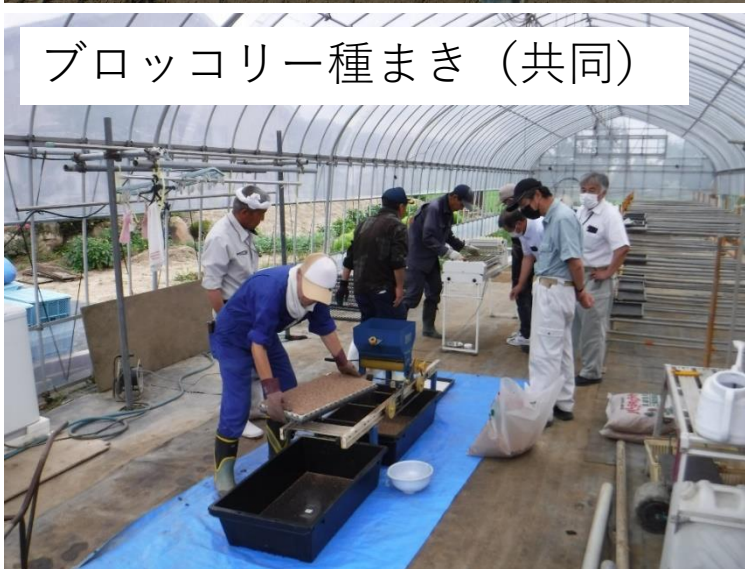
ブロッコリー収穫 (共同)



防除作業 (リーダー)



ブロッコリー種まき (共同)



つるむらさき収穫 (共同)



さつまいも定植 (共同)



4. 活動の成果

【定性的目標】

農地の復旧状況に合わせた営農が再開されることで、農業者が前向きに農業に取り組めるようになる。

「被災前と同様の景色」

「園芸に取り組む姿勢の定着」

「共同作業の定着」

地域の担い手候補が明確化される。

「リーダー意識の育成」

【定量的目標】

(目標)

(実績)

R2	→	R3	→	R4
1人		2人		3人
1人		1人		3人

5. 今後に向けて

丸森中央集団転作組合（竹谷地区基盤整備推進委員会）
「**農業基盤整備**」に伴い「**法人化**」を目指している

① リーダーから担い手へ育成・組織体制の強化

意識改革，コミュニケーションの充実

② 技術向上による経営の安定化

品目の絞込み，基本技術の習得
収益性の向上

③ 新たな担い手の呼込む体制づくり

事務所の整備，魅力ある営農

